

チロル民族芸術博物館についての一考察

村越 信子

A Study of "Tiroler Volks Kunst Museum"

Nobuko MURAKOSHI

はじめに

オーストリアの南西端に位置するチロル州の州都インスブルックの市内に今回訪れたチロル民族芸術博物館がある。イン河々畔からほど近い、王宮庭園に面したルネッサンス様式の王宮の一角である。この博物館の前身は、皇帝フランツ・ヨーゼフ一世の治世40周年を記念して、1888年に設立された交易博物館で、第一次世界大戦後の1929年に現在の場所にチロル民族芸術博物館としてオープンした。〔写真1〕



〔写真1〕博物館の入り口

先ず、王宮の付属ホーフ教会を通り抜けると、一階の回廊に沿って木彫を施し、彩色された雪ゾリが何台も展示されている。年代や谷筋ごとにスタイルや模様、色彩が異なり雪に閉ざされた白銀の世界に彩りを添えていたことであろう。この雪ゾリはファッションの一つとしての流行もあったと思われる。〔写真2・3〕

展示室に入ると、チロルを印象づけるべくシュランク (Schränk) という引き出し付きの大きな戸棚が目に入る。幅200cm奥行55cm高さ250cmという大きさである。〔写真4〕

二階フロアへと上がると、大きな家屋が復元されていて、そこにはタイムスリップしたような空間があらわれる。〔写真5〕室内にはチロル民家の建築様式が



〔写真2〕雪ソリ



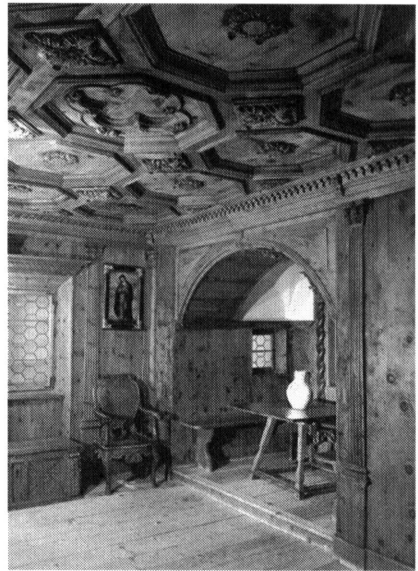
〔写真3〕雪ゾリ

解説され、チロル地方の住居の特徴が理解できる。特に大変珍しいストーブと呼ばれる部屋の使い方である。(後述) 復元された室内を歩くと床のきしみが足底に伝わってくるようである。展示は室内の装飾、家具の配置、生活に使われていた日用品の他に、民俗衣装や祭りのときに使うお面や衣装におよび、質量共に素晴らしいものであった。

このチロル州には、日本の長野県とほぼ同じ広さのなかに、幾筋もの谷が縦横に走っていて、それぞれに渓谷社会が成り立っている。これらの谷筋での生活には、伝統や文化、気候風土、生活様式の違いが如実にあらわれている。どのような歴史をもって渓谷社会が成り立ってきたのか興味が尽きない。チロルの人々の生活を理解するために、関係が深いと思われる気象に関するフェーンと伝統家具についての調査アンケートを作成した。回答を得たものを参考にし、今回見学したチロル民族芸術博物館に展示されている数多くのものなかから、特に興味を覚えた伝統家具を通して考察を進める。現在、チロルの日常生活の中で生かされているこれらの家具・調度品についてもふれてみたい。〔写真6・7・8・9〕



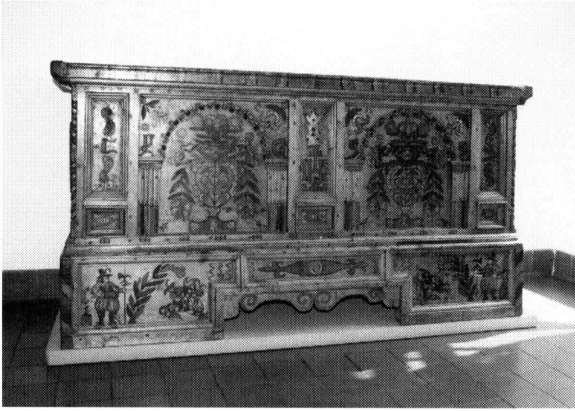
〔写真4〕



〔写真5〕復元された室内

(1) チロルの自然環境と独立した渓谷社会

オーストリアは豊かな伝統を持った国で、古くからのしきたりが、今なおしっかりと息づいている。国民の90%が、カトリック教徒というお国柄から深く根付いた信仰心は、宗教行事か



〔写真6〕



〔写真7〕



〔写真8〕



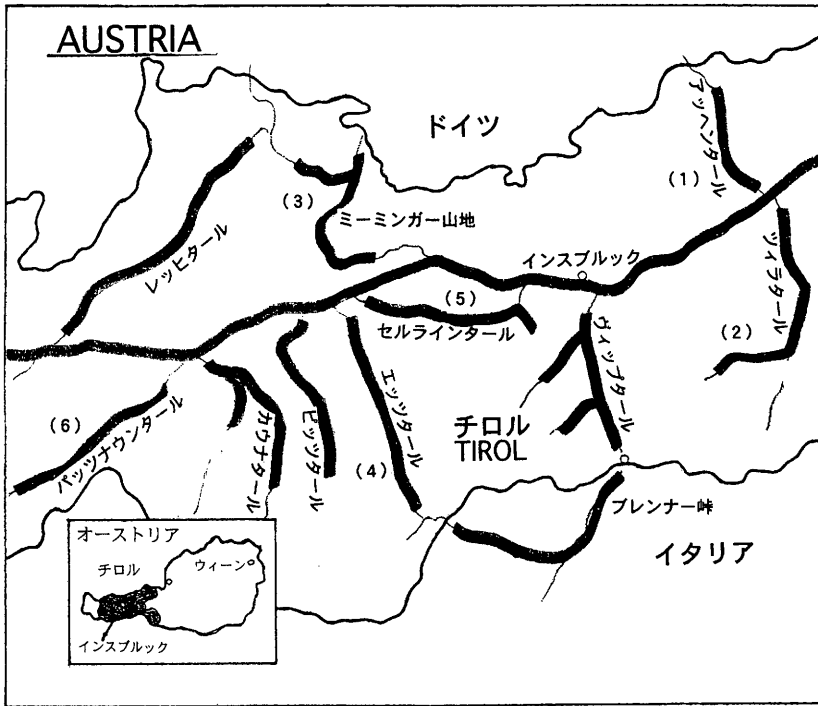
〔写真9〕

ら日常の生活のなかにもあらわれているし、町や村の景観にも窺うことができる。

チロルは山岳重畳の地である。その真ん中をスイスから流れ出たイン河が西から東へ貫通し、そのイン河に向かって沢山の横谷、縦谷が走っている。〔地図1〕

この地では、紀元前3,000年頃から人が住んでいた形跡があり、紀元前1,800年頃に南からローマ族が、西はスイス地方から、北欧の方からも谷々に入り込んで定住を始めた。それらの民族は、それぞれの溪谷に独自の社会を形成した歴史がある。

チロルの気候風土は厳しく土壌は貧しい。岩地に泥を貼付けるようにして牧草を育て、牛を飼う生活は、労働を伴い決して楽な生活ではない。そして半年は雪に閉ざされるのである。かつて、セルラインタール（5・地図1参照）では、雪に閉ざされると外へ通じる大きな道を持たなかったので、死者を葬るすべもなく教会の天井裏に安置し、凍結させて雪解けを待ったと



〔地図1〕

聞いた。それほどまでに厳しい自然環境である。昔の谷での生活は、山々に隔てられ孤立した自給自足の生活を強いられた。そのためか谷筋ごとに言葉や家屋の建て方、家具や調度品、民俗衣装にいたるまで違いがみられたということである。

自然条件の中で、いま一つ忘れてはならないものに、フェーン (Föhn) がある。フェーンと呼ばれる“暖かい山おろし”が一番猛威を振るうのは、アルプスの北斜面に当たるこのチロルである。このチロル州の西側パッツナウンター (6)、中央のエッツター (4) は頻繁にフェーンがやって来る谷である。〔表1・アンケート調査より〕

日本ではフェーン現象といって、空気の乾燥状態をいっているが、チロルではあくまで吹きすさぶ南風のこと。春の先駆けの熱風そのものをさす。フェーンは二三日吹き続き、溪谷をさんざん荒し回ったあげく、次は雨を降らせる。その雨もいわゆる土砂降り、集中豪雨である。小川は溢れ、橋は流され、瞬時にして辺りは水浸しになるから、野を覆っていた雪もはじめてのフェーンの熱風に続いて、この大雨ですっかり解けてしまう。この風が吹いている間は、村の人々は絶対に家の外には出ないし、絶対にタバコを吸わない。夜になると交代で夜回りをし、消防隊がいつも待機の姿勢をとっている、それほど恐ろしい熱風である。フェーンが通り過ぎた後、野原を見ると一度に春が来たようになり、幾月ぶりかで真っ黒い土が見え、人々の顔が輝いている。木々も長い冬の眠りから覚めて、急に勢いづいている。こうしてフェーンはチロルの住民を長い冬から解放する。

[表1]

Dürfen wir Sie bitten, die folgende Umfrage zu beantworten?

1. Wie heisst dieser Tal?
2. Föhnt es in diesem Tal?
 - a. In welcher Jahreszeit föhnt es?
 - b. Was passiert dabei? Würden Sie uns von den einzelnen Umständen erzählen?
 - c. Richtet das Föhnwetter Personenschäden oder Sachschäden an? Infolge des Föhnwetters, unter welchen Wirkungen leiden Sie am meisten?
 - d. Haben Sie noch andere bemerkenswerte meteorologische Erscheinungen?
3. Über den christlichen Glauben der Bewohner:
 - a. Wieviele Kirchen gibt es ungefähr in diesem Tal?
 - b. Zu welchen Gelegenheiten gehen sie zur Kirche?
 - c. Was für Feste oder Veranstaltungen begehen sie in der Kirche?
 - d. Gibt es Bildstöcke am Straßenrand?
 - e. Wem sind diese Bildstöcke geweiht (z.B. Christus, Maria, einem Heiligen, usw.)?
 - f. Verehrt man diese Figuren auch in der Wohnung?
 - g. Wo in der Wohnung sind diese Figuren ausgestellt (z.B. im Wohnzimmer, Schlafzimmer, Garten, auf der Außenmauer, usw.)?
4. Über die Häuser oder Bauwerke im Tal:
 - a. Was ist der charakteristische Baustil, der sich von den anderen Tälern unterscheidet?
 - b. Sind allerlei Fresken auf die Außenmauer der Wohnung gemalt?
 - c. Sind es religiöse Bilder oder wird etwas vom Alltagsleben darin thematisiert? Worum geht es denn?
5. Über Möbel und Geräte in der Wohnung:
 - a. Wann und von wem wurden sie hergestellt (aufgebaut)?
 - b. Womit sind sie künstlerisch (z.B. mit Gemälden, Bildhauereien, usw.) geschmückt? Welches Muster ist dafür gewählt?
6. Wenn es noch etwas besonders Bemerkenswertes gibt, würden Sie es bitte beschreiben?

Wir danken Ihnen für Ihre Bemühungen.

もしチロルにこの恐ろしいフェーンが来なかったら、チロル一帯の春は6月にならなければ来ないだろう。しかしフェーンは、冬の終りに一度だけ吹くとは限らず、溪谷によっては二度三度と繰り返しやって来ることもある。

この恐ろしいフェーンは一方において山の幸、野の幸をもたらす。フェーンの風が通る谷と通らない谷とでは大きな違いがあらわれる。結果としてフェーンの通る谷は、地味は豊かなので、住民の経済状態も良好である。フェーンの吹かない谷は、春の訪れは遅く、雪に埋もれている。住民の生活も厳しく、自然の過酷な条件の下に忍従の生活を強いられることになる。このような谷では、自然に人々は室内で暮らす時間が多くなるので、従って他の谷では見られない手仕事が発達し、それによって冬場の収入を得たようである。インスブルック市内にあるチロル民族芸術博物館に、保存展示されていた谷ごとの家具・調度品などは、厳しい自然との戦いの中で生みだされたものである。チロルの人々は、これらの伝統家具に誇りを持ち、大切に守り伝えてきたのである。

(2) 谷ごとの家具やストーブの実例

A、アッヘンタール (1) ・(地図1)参照

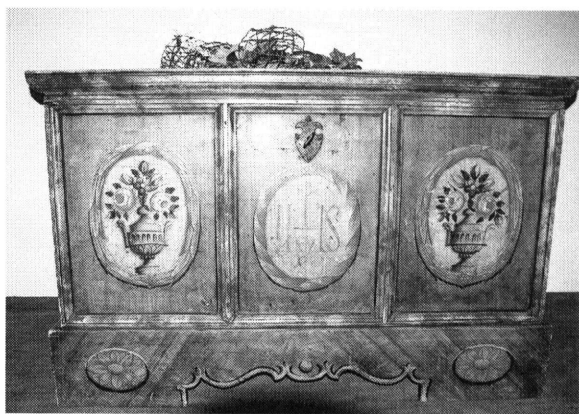
インスブルックからイン河に沿って東へ40km程のイエンバッハ (Jenbach) で北上する。ドイツ領へと続く181号線沿に細長いアッヘンゼーが広がる。

a、ペンション・ワグナーホフ

アッヘンゼーの湖畔のベルティザウ (Pertisau) のペンション・ワグナーホフ。ロビーのフロアからレストランへの通路や各階の踊り場、廊下には装飾としてトゥルーエ (Truhe) が数多く置かれていた。トゥルーエとは、主に衣装を収納する長持ち風のもので、幅180cm奥行45cm高さ100cmほどのサイズである。それらに表現されている図柄は、各々違ったもので、レストランの入口手前のは〔写真10〕モザイク調で、多少彫り込みもある。〔写真11〕は三面にテンペラ画で花々を表現している。天板には人形を置きセンス良く配置されていた。



〔写真10〕 ペンション・ワグナーホフ



〔写真11〕 ペンション・ワグナーホフ



〔写真12〕 レストラン・マーラハウス



〔写真13〕 レストラン・マーラホフ



〔写真14〕 ガストホフ・マリエンダル

B、ツィラタール（2）

チロルの数ある溪谷の中で、このツィラタールは、ひときわ谷幅の広々とした溪谷である。広い田園風景の中をツィラー川に沿ってゆっくりとSLが走り、のどかな風景が展開している。

a、レストラン・マーラハウス

チロル州で一番人口密度の高い谷であり、南北約60kmのツィラタールに入って最初の大きな集落であるフーゲン（Fügen）の駅前のレストラン・マーラハウス。建物は近代的であるが、増改築したらしく旧舎の部分に繋がる通路の踊り場、その一角にも伝統的な素晴らしい家具が置かれていた。一つはトゥルーエに属すると思われるが、上部は引き出しになっていて下部は観音開きであり、中には棚がつくられている。扉の部分には左右違った風景画が嵌め込まれて、衣装箱としてだけでなく用途は広いようである。〔写真12〕

もう一つは大型のシュランクである。〔写真13〕 落ち着いた色調で彩色されていて、正面、側面、他、足台まで模様が描かれている。特に大きく面取りした側面が活かされた家具である。日本の箆笥のようなものである。

b、ガストホフ・マリエンダル

ツィラタールの中心地マイヤホーフェンの10km手前のラムザウ（Ramsau）村のガストホフ・マリエンダル。幹線道路沿いで一階はテラス付きのレストラン、二階が宿泊施設であり、古い由緒ある宿である。玄関ホールの階段脇に上部が蓋になっているトゥルーエがある。〔写真14〕

約幅150cm奥行45cm高さ70cmのサイズである。花や風景が描かれている。わずかであるが連続模様に使われている幾何学模様には彫り込みが入っている。本体を支える脚には、アルプスの動物が描かれていてチロルの雰囲気を醸し出している。螺旋階段を登った二階の正面にはかなり大型で重厚な感じの戸棚が置かれていた。〔写真15〕鮮やかな藍色と木目のトーンが印象に残る。この家具は、ヴェルクツォイク・カステル (Werkzeug Kastl) といって道具収納戸棚である。約幅130cm奥行60cm高さ200cmのサイズである。廊下を進むと曲り角に真新しい三角柱の収納箱幅90cm奥行30cm高さ100cmが取り付けられている。〔写真16〕片開きの扉には、花柄を



〔写真15〕 ガストホフ・マリエンダル

デザインした木彫りのレリーフが嵌め込まれていた。戸棚の上には花が飾ってある。どのように利用されているのかと、そおーと扉を開けてみたら、何とその中には消火器が納められていた。建物の内部の雰囲気を壊さぬ配慮なのだろう。家全体を木製で統一しているので、異質な材料である消火器を上手く収納させている。その他、揺り籠や子供用のソリなど最近まで使われていたと思われるものを、室内装飾用に生かしてあった。

c、ガストホフ・フォーレレ

ツィラタールの鉄道の終点であるマイヤーホーフェンより枝谷トクサタールに入ったラナーズバッハ (Lanersbach) 村のガストホフ・フォーレレ。この付近はチロルらしい家並みが続く集落である。ガストホフの1階のレストランにストゥーベという部屋の使い方の様式が残されていた。チロル民族芸術博物館で知識を得た様式である。室内の装飾も兼ねてタイル張り



〔写真16〕 ガストホフ・マリエンダル

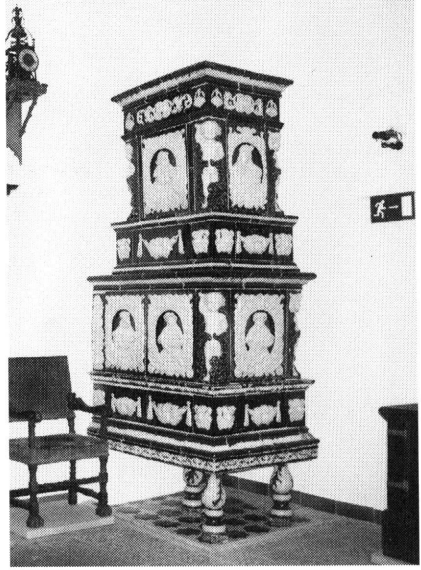


〔写真17〕 ガストホフ・フォーレレ

のストーブや
収納棚が部屋
の雰囲気盛り
上げている。
〔写真17〕こ
のストーブの
周りにはベン
チの代わりに
昼寝用のベッ
ドが据えられ
ている家もあ
るようだ。



〔写真18〕



〔写真19〕

このタイル
張りのストー
ブは、熱の伝

導率が高くなるように工夫されている。表面は茶褐色や薄緑色のタイル張りで、内側は壺が幾つも据え付けられていて、壺の中に小石を埋め込んで熱を逃がさない工夫がしてある。少ない薪を燃やして、一日中部屋が暖かく保てるよう保温性が高められている。このストーブが活躍するシーズンにもう一度訪ねてみたいものである。〔写真18・19・20〕

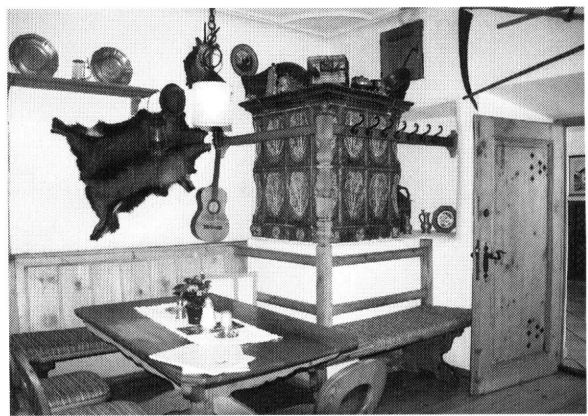
C、ミーミンガー山地（3）

a、ガストホフ・ツーアポスト



〔写真20〕

フェルンパス峠を下った集落のガストホフ。ここも一階のレストランはチロル地方を代表するスチューベ様式であった。〔写真21〕『部屋の右手の角に色彩も豊



〔写真21〕 ガストホフ



〔写真22〕 ヨーロッパの家3 講談社より転写

かなタイル張りのストーブが設置され、その周りにベンチが置かれている。部屋の片隅には、カトリック教徒であることを示す十字架が架けられている。その反対側には収納棚が備え付けられている』

これがストーベと呼ばれる部屋の配置である。そして、必ずその部屋に備えられている収納棚は、実と用とを見事に兼ね備えた、インテリアの装飾が組み込まれた独特のスタイルである。〔写真22〕 収納棚の上の飾り棚の右側に見えるのは、手洗い用の装置である。室内に水道を持たない伝統的な住まいには、この収納棚を居間の入口のそばに置き、錫や銅で作られた水を入れるタンクと手を洗う水場が設置されているのである。このストーベという部屋は、広さには差があるが、約20畳の居間である。

14、15世紀にチロル州の西のモンタフォン地方（アールベルク州に入る）で生みだされ、各地へと広がったといわれる。寒さが厳しい地方なので、ストーブの暖房効果を最大限に生かし、家族が揃って一つの部屋で快適な生活が営まれるような暮らし方として考案されたのであろう。



〔写真23〕 ハウス・パノラマ

ストーベのあるレストランで食事をとっていると、丁度民家の居間で楽しく団欒しているような錯覚に陥る。

b、ハウス・パノラマ

インスブルックの西方、イン河の北側に広がる山地で、ドイツのツークシュピッツェ山方面へと続くフェルンパス街道の沿線にあるビーバーヴィーア（Biberwier）の入口にある宿舎・ハウス・パノラマの家具は、寝室の前の廊下に置かれているトゥルーエある。

〔写真23〕 このサイズは幅150cm奥行き45cm高さ70cmで、蓋の上には、主婦の手造りの刺繍が施されたテーブルセンターが敷かれ、季節の花が飾られていた。主に衣装を収納するものである。



〔写真24〕 ハウス・パノラマ



〔写真25〕 ハウス・パノラマ

もう一つの家

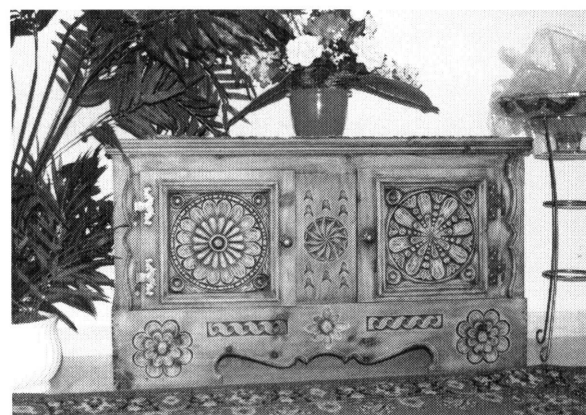
具は、台所や食堂、廊下の壁面に取り付けられ食器入れである。〔写真24・25〕 彩色はほとんどされていないが、深い鑿跡で幾何学模様を十分に生かしている。

D、エッツタール（4）

イン河へ南から流れ込む支流の中で、一番奥深い谷で50kmにわたる溪谷が続いている。エッツタールの中心的な観光地であるが、手仕事の盛んな村であるセルデン（Sölden）は木工家具や鍛金は定評がある。

a、ガストホフ・ゴールドナーラム

この宿の家具は、玄関に続く廊下に置かれたトゥルーエである。〔写真26〕 蓋は開閉式ではなく、全面に二つの扉が堅牢な蝶番で取り付けられている。家具ではないが、さりげなく上下に彫刻を施したお盆状のものを壁面に取り付け、束ねた造花や穀類を飾り廊下のアクセントになって良い雰囲気をかもし出しているものも目に止まった。

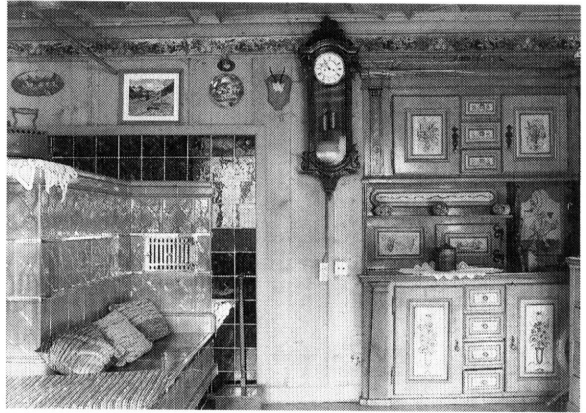


〔写真26〕 ガストホフ・ゴールドナーラム

〔写真27〕 この家の玄関ドアは鋳物造り重厚さを感じる立派なものである。この扉をはじめ家具の蝶番だけでなく、随所に鋳物細工が、心憎いばかりに木製品と調和させ生活の中に溶け込んでいた。



〔写真27〕 ガストホフ・ゴールドナーラム



〔写真28〕 ヨーロッパの家3 講談社より転写

結 び

チロルの自然は、訪れる人々に限りない安らぎと活力を与えてくれる。その景観の中に、がっしりとした木造三階建ての家々が点在し、心地よいアクセントを醸し出している。それらは大きな切妻屋根を持ち、台所や暖炉など火元に近い部分は白い漆喰壁になっているが、その他は全て木造である。室内も外観同様、天井や床、壁面、扉、そしてベッドや家具調度品などに至るまで、全て木材が使われていて、時を経て重厚な雰囲気醸し出している。トウヒやモミ材をふんだんに使い、厚い板材の力強さと薄板での装飾とをシンプルに纏めた取り合わせが見事である。

19世紀に入ってから、穏やかな色調と柔らかい感触を家具や調度品に求める傾向があらわれ、この色合いは、それ以来の伝統になっているようである。ストーベと呼ばれる部屋の使い方には、チロルの気候風土を熟知した人々の生活感覚が顕著にあらわれている。〔写真28〕この地方独特のスタイルである保温性を考えたタイル張りのストーブや収納棚の一部を利用した小さな手洗い場は、実用性、経済性の他、機能そのものがインテリアの装飾として生かされていた。このタイル張りのストーブは、芸術性に富み、寒さが厳しいこの地方ならではの暖房効果を生かす暮らし方が窺える。そしてチロルで暮らす人々の心の支えになっているのは、室内の一角に必ず掲げられている十字架像に見られるように篤い信仰心である。この信仰心を基に、年間を通じて、四季折々の行事が多く実施され、チロルの人々の生活の区切りになっている。大きな祭りとしては、春を呼ぶ謝肉祭、キリストの復活祭、そして聖誕祭などである。主として宗教的なものがほとんどであるが、10月の収穫祭のように農業祭に関係した祭りやコンクール等があり、賑やかに実施される。

その一つに、冬至が過ぎた頃、家具のコンクールが催される。個々に計画的に準備していた家具製作の仕上げ段階に入り、大変忙しい時期でもある。コンクールに出品し、日頃の成果を披露する場である。この行事は、冬に閉ざされる谷での冬場の仕事として、木工家具を製作し、収入につなげていた伝統があり、木工家具が守り伝えられてきた由来にもなっている。このコンクールは谷ごとに行われる。これらの伝統的な家具は、調査の結果、チロルの東側ツィラタール付近では、主に彩色を施し、華やかな明るい感じのする仕上げになっている。ミーミンガー山地やエッツタールなどの西側では、木地を生かし、木彫を施し、鑿の跡を残し、重厚さを出しているのが特徴である。この東と西の谷での様式の違いは、フェーンがやってくる谷と、通らない谷など気候風土の違いや、かつて河が切り開いた多くの渓谷に、最初に住み着いた、違った民族の歴史に影響しているようである。

伝統的な家具であるトゥルーエ、シェランク、ヴォルクツォイ・カステルなどは、どれもほとんど形は同じであり、サイズもほぼ同じ大きさを守っている。〔写真29・30・31〕今でも嫁入り道具や子育て用の家具は、花嫁の父や兄が独自の模様で製作し、新しく生まれた赤児の父親は、愛情を込めて彫りを入れ、場所によっては彩色を施し、揺り籠を製作している。この赤児のための揺り籠は、聖誕祭の朝、父親が教会に



〔写真29〕



〔写真30〕



〔写真31〕

[表 2]

Sehr geehrte Damen und Herren!

Darf ich mich Ihnen vorstellen? Ich heiÙe Nobuko Murakoshi. Ich widme mich an der Universität in Tokyo dem Studium and der Herstellung der Bildhauereien. Jetzt besuche ich mit Begeisterung und Aufregung die österreichischen Museen in den verschiedenen Teilen des Landes, um eine Umfrage bei ihnen zu veranstalten.

Würden Sie so freundlich sein, die folgenden Fragen zu beantworten?

1. Wie ist der Name Ihres Museums? *Tiroler Volkskunst museum*
2. Wann wurde das Museum gegründet und von wem? *1929 vom Tiroler Gewerbeverein*
3. Wie lange pro Tag/Woche ist das Museum geöffnet? *7 Tage*
4. An welchen Tage (Bei welchen Gelegenheiten) wird das Museum geschlossen? *Weihnacht^{1 Tag} + Ostern^{1 Tag}*
5. Wie hoch ist die Eintrittsgebühr? *5 €*
6. Ist das Museum staatlich oder privat? *privat*
7. Wieviele Angestellte haben Sie? *28 Personen*
8. AuÙer den regelmäÙigen Ausstellungen, was für Sonder-Activitäten halten Sie ab? *Keine*
9. Wieviele Besucher empfangen Sie durchschnittlich pro Jahr? *12.000*

Herzlichen Dank für Ihre Bemühung und Kooperation.

Dürfte ich Sie um eine Broschüre von Ihrem Museum bitten?

Ich wünsche Ihnen für die Zukunft alles Gute!

運び、司祭の祝福を受け家に持ち帰り大切に使われるのである。

このように、木工家具の伝統が現在に受け継がれている。これらの家具製作の中でも、特にこの揺り籠には伝統的な彩色を施さない谷の人たちも、赤児のために美しく彩っているようである。

聖誕祭の日には、家族揃って教会に出向きミサが終れば、家に戻って夜は主婦のご馳走を食べ、静かな聖日を過ごす。ちなみにチロル民族芸術博物館は、復活祭と聖誕祭が休館日になっている。〔表2〕

参考文献

- 1) 津田 正夫：チロル案内 暮らしの手帖社 1968
- 2) 松田 松二：環境科学者の見たチロル 山と溪谷社 1998
- 3) 小谷 明：チロルパノラマ展望 新潮社 1994
- 4) 紅山 雪夫：オーストリア・中世の古都と街道 トラベルジャーナル社 2000
- 5) ミシュラン・グリーンガイド オーストリア 実業之日本社 1999
- 6) 樺山 紘一郎監修：ヨーロッパの家3 講談社 2000

謝 辞

博物館及びフェーン・家具調査のアンケート作成のためにドイツ語のご指導を賜りました横尾信男教授に感謝申し上げます。